

## 屋嘉比朝寄について

屋嘉比朝寄は 1716 年に玉川<sup>あし</sup>按司朝雄の四男として首里に生まれました。若い頃から音楽の才能を認められ、尚敬王<sup>しょうけい</sup>の命を受け、鹿児島<sup>きょうきよ</sup>で謡曲・仕舞などの大和芸能を学びます。帰国後の経歴には不明な点が多く、取納座筆者<sup>しゅうのう</sup>という役職に就いていた時に眼病を患って失明し、職を辞したといわれています。

その後、師<sup>せん</sup>の聞覚<sup>もんかく</sup>について歌三線<sup>うたさんしん</sup>を学び、持ち前の音楽的素養を活かして、従来の三線音楽に改革を加えたとされます。晩年には大和芸能の功績によって屋嘉比の名嶋<sup>ななしま</sup>（名目上の領地）を拝領し、屋嘉比親雲上<sup>おんぢん</sup>と名乗るようになりました。現在、屋嘉比朝寄の名は、三線音楽の工工四<sup>こうこうし</sup>を創案した人物として、ひろく知られています。

屋嘉比家には家譜<sup>かふ</sup>が現存しないため、これまで家族については不明でしたが、浦添市教育委員会による厨子甕<sup>くしづゑ</sup>と墨書<sup>すみがら</sup>（銘書）の調査で、妻・真伊奴<sup>まゐぬ</sup>の存在とその間に二人の子供がいたことなどがわかりました。



屋嘉比家のお墓

背景『工工四』原本：琉球大学附属図書館

## 屋嘉比朝寄の年譜

西暦	年号	年齢	できごと
1716	康熙 55	0	朝寄生まれる(向文明玉川按司朝雄四男)
1721	康熙 60	5	妻真伊奴生まれる(家譜には「真奴金」と記されている)
不明	不明	ニオ(青年)	尚敬王の命を受け、薩摩へ上国。師匠四人について謡と脇仕舞を学ぶ
1748	乾隆 13	32	兄、玉川按司朝計の小姓として薩摩へ上国する
不明	不明	不明	取納座筆者を勤めるが、在職中に失明
不明	不明	不明	失明後は聞覚について歌三線を学ぶ
1752	乾隆 17	36	尚穆王即位
1753	乾隆 18	37	師匠の聞覚が亡くなる
1755	乾隆 20	39	妻真伊奴洗骨(没年は不詳)。享年は 30 歳前後か？
不明	不明	不明	有川治右衛門に琉歌三味線を教える。有川の帰国に際して工工四を渡したとされる
1759	乾隆 24	43	同僚とともに尚穆王をはじめ多くの人に謡の稽古をつけたため、拝領物を賜る 首里の各村々で番謡の師匠をたびたび勤める
不明	不明	不明	乾隆 24 年の功績が認められ、屋嘉比の名嶋を賜る
不明	不明	不明	名嶋を拝領以後「屋嘉比親雲上」と名乗る。名も「朝儀」に改名か？
不明	不明	不明	弟子である豊原朝典、仲田朝朗に歌三線を教える
1770	乾隆 35	50	娘(豊城親雲上盛栄妻)洗骨
1775	乾隆 40	59	朝寄亡くなる
1780	乾隆 45	—	朝寄洗骨
不明	嘉慶年間	—	息子朝邑が亡くなる・洗骨

※太字は浦添市教育委員会の調査で、新たに確認できた事

うらそえの  
文化財紹介

工工四の創案者

や か び ちょうき ず し がめ  
屋嘉比朝寄の厨子甕



屋嘉比朝寄(左)と妻・真伊奴(右)の厨子甕

浦添市教育委員会  
Tel.098-876-1234(内線6216・6217)